

# 令和5年度 合川小学校研修実施計画書

## 1 研究主題及び教科

研究主題	対話を通じて、自分の思いや考えをもつ子どもの育成 ～考えをつくるための「しかけ」のある授業をめざして～
教科・領域	国語科，領域全般

## 2 主題設定の理由

本校は、令和3年度より国語科の研究・研修を行ってきた。令和3年度は「伝え合い かかわり合い 学び合い～自分の考えや思いを表現する力の育成をめざして～」をテーマに、「話す・聞く」の領域において「自分が伝えたいことを表現する力」の育成を目指した。そこから見えてきた課題をもとに、令和4年度は、「自分の思いをもち、伝え合う力の育成～子どもたちが思いや考えをもてる学習の創造を通して～」をテーマに「思いや考えをもつ」ということに焦点を当て、そのための具体的な手立てについて研究及び実践を行ってきた。

その結果、児童が話しやすい話題や児童にとって必然性のある話題を提供したり、思考や話し合いの流れを可視化するために思考ツールを活用したりすることで、思いや考えをもつことにつながった。

しかしながら、予め話し合う話題を伝え、準備していた自分の考えについては話せるものの、他者の意見を受けて、それと関連付けたことをその場で話すことができないという課題が浮かび上がった。すなわち、対話を深めることができないということである。

そこで本年度は、対話を通じて、自分の思いや考えを形成したり、更新したりできる児童の育成に研究の重点を置くこととした。小学校学習指導要領解説総則編では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の三つの視点が示されており、その内の「対話的な学び」については、「子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手がかりに考えることを通じ，自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているかという視点」と述べられている。この記述から「対話」は、児童同士の対話に限ったものではないという解釈ができる。例えば、指示や発問といった教師の言葉に対して、様々に思考を巡らせることも対話といえる。資料同士を比較することで共通点や相違点を見つけ、思考することは、提示した教材との対話といえる。既習内容や経験と関連付けたりすることは自己内対話である。このように、本校では対話という言葉を広く解釈し、様々な人や事象との対話を通じて、児童が自分の思いや考えをもつという研究主題に迫ることを目指したい。

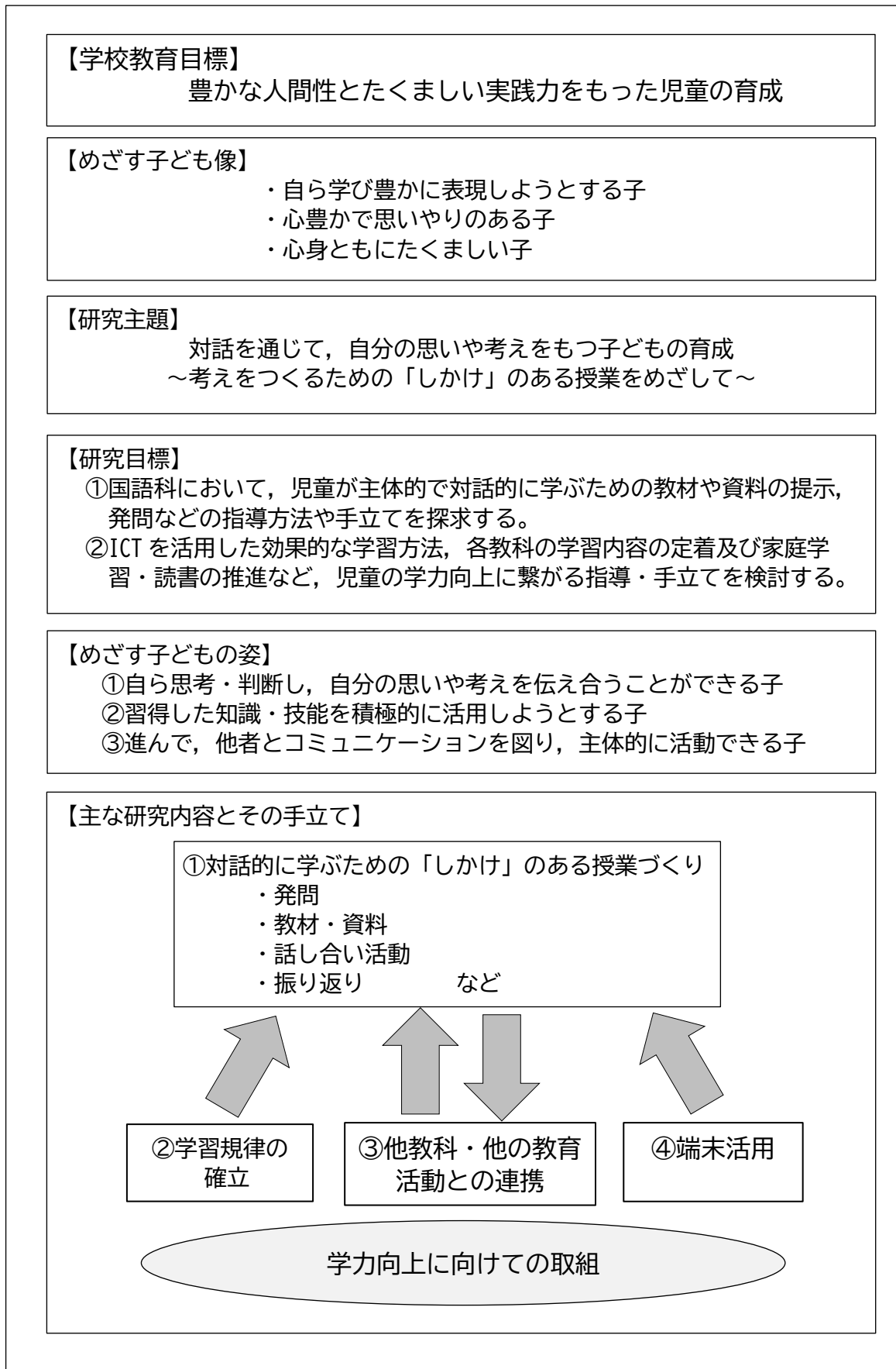
児童がより活発に対話し、他者や事象と自分を比較・関連付けたりするには、日々、言葉と言葉のつながりを意識して学ぶことが大切である。例えば「AとBは似ているだろうか」「共通点は～だから、つまり…」といったような思考ができる子たちを育てたい。どの言葉に着目し、どのように考えればよいかといった道筋を児童に示すためには、授業者の指導や手立てが必要になる。こうした授業中の指導や手立てといった児童への働きかけを本校では「しかけ」と定義する。

各学年や児童の実態に応じた「しかけ」を授業に取り入れ、国語科の全領域の学習において、対話を通じて自分の思いや考えを形成できる子どもの育成に取り組んでいきたい。

また、対話によって、思いや考えを比較したり、結び付けたりするためには、どのような「しかけ」が有効であるのか、日々の授業実践や研究授業などを通して、探っていきたい。

### 3 研究内容及び方法

#### 3.1 研究構想



### 3.2 具体的な取組

#### (1) 対話を通じて、自分の思いや考えをもつ子どもの育成を目指した取組

##### ①対話的に学ぶための「しかけ」のある授業づくり

児童がより活発に対話したり、自分の思いや考えを関連付けたりできるような工夫を意識的に取り入れる。授業者が日々の授業の中で「しかけ」を意識したい場面の例を挙げる。

##### 発問

発問は、児童が思考を働かせる上で、重要な働きかけである。1時間の学習の「めあて」に深く関連することも多い。どのような発問をすれば、児童が考えをもちやすいのか、他者に考えを「伝えたい」と思えるのかという点を意識したい。また、児童間で考えのズレが生まれやすいもの、考えの根拠が示しやすいものなどは、他者との思いや考えを比較・関連付けたりする場面を生み出すきっかけとなり得る。

##### 教材・資料

教材や資料の提示も、発問と同じく、授業において1時間の学習の「めあて」に直接関わることが多い要素である。児童が自分の考えをもちやすい教材や、見ただけで自然に問いをもてるような教材、またその教材や資料の提示の仕方を工夫することも授業の「しかけ」となる。教材の一部を隠しておいたり、意図的に言葉や写真を変えたり、二つ以上の資料を見せる順番を工夫したりすることで、児童の思考が揺さぶられ、教材との対話や仲間との対話、自己内対話につながると考えられる。授業者がどのような意図をもって、何をどのように提示することが効果的であるのか検証していく。

##### 話し合い活動

他者と対話し、自分の考えを伝えたり、新たな考えを形成したりするために、授業の中でペアやグループで相談する活動を取り入れることがある。授業者が明確な意図をもち、話し合いの人数や内容、話し合わせるタイミングや時間、机の配置などを考慮し、授業の中で話し合う活動を取り入れたい。またその有効性を検証していく。

##### 振り返り

振り返りは、本時や単元全体の「めあて」に対して、自己の学びの気づきや変容を確認・整理する活動である。この活動は、自己や他者と対話を通して思考し表現する活動ということができる。1時間の学習や単元について、何がわかったのか・わからなかったのか、どうすればできたのか、誰の意見を聞いてできるようになったのかといった「めあて」に正対する振り返りを、日常的に行うことで、研究主題に示したような力の育成を目指したい。そのためには、振り返りにどのようなことを書かせるのか、書くためにどのような指導をするのかといった教師の「しかけ」が重要になる。有効な手段を検証していきたい。

これらの「しかけ」の例は、必ずしも1時間の授業で全て行われるものではない。指導内容や児童の実態からその授業に必要な「しかけ」を吟味し、日々の授業の積み重ねによって、児童に身につけさせたい力を育てていく。

##### ②学習規律の確立

対話を通じて、自分の思いや考えをもつためには、話したり聞いたりするスキル、比較などの思考の習慣なども重要になる。これらは、一朝一夕につくられるものではない。そこで、各学級において学習規律をつくり継続的に指導していく。学級や学習のルール、掲示物、教室の環境など、学級や児童の実態に合わせて計画し、児童に身につけさせたい。

また、児童が他人と異なる考えを言ったり、それらを受け止めたりできるような学級づくりも対話を生むためには必要である。このような心理的安全性が保障された集団をつくる学習規律も重要である。

### ③他教科・他の教育活動との連携

今年度の校内研究で目指すものは、他の教科や他の教育活動との連携を図ることで確かなものとなる。国語科以外の教科においても、先に述べたような「しかけ」を取り入れることで、対話や思考の習慣の定着を目指したい。また、国語科の学習を通して身につけた力が、他の教科や特別活動などで活かされ、何かを成し遂げることができれば、児童自身もその力に対する有用感が高まると考えられる。「国語科から他の教育活動へ」と「他の教育活動から国語科へ」といった双方向的な連携を目指したい。

特に、本校では小規模特認校の特色として、9年間、全学年で英語に親しむ活動を実施している。今年度は、外国語及び外国語活動の授業だけでなく、モーニングイングリッシュやイングリッシュタイムなどの英語に親しむ活動を行ったり、音楽や体育など様々な教科でALTと関わったりしている。こうした活動や、これまでの活動で子どもたちに培われたコミュニケーション能力は、今年度本校が目指す「対話」の力と関連すると思われる。

また、本校の児童は、地域の方とも日常的に関わる機会が多い。児童は、遠足や町たんけんなどの活動や、学習のサポート、下校の見守りなどで多くの地域の方と気軽に話をしている。こうした地域の方との関わりの中での対話を学習に活かしていきたい。

このように、本校の特色なども考えながら、他教科及び他の教育活動との連携を図り、研究を進めていく。

### ④ 端末活用

1人1台のタブレット端末が導入されて数年経過し、教師、児童共に端末を授業で活用することが増えてきた。同時に、有効な活用方法やアプリケーションなども次第に整ってきている。こうした端末やアプリケーションの活用による教育的効果は大きい。

先述の教材・資料のしかけで述べた、意図的に言葉や写真を変えたり、資料を見せる順番を工夫したりするといったような提示方法の工夫に関しては、ICT機器を活用することが有効であると思われる。また、児童が自分の考えを表現する場合も、自分のタブレット端末を通じて、共同編集機能などを使えば、仲間の考えを同時に相互参照できる点から、互いに考えを比較することが容易である。こうした、授業での端末の活用については、個人での実践例だけでなく、情報担当者やICT支援員を中心とした校内研修の場を設け、共有していきたい。

## (2) 学力向上に向けての取組

### ①ICTの活用

- ・各学年でICT（Chromebook・プロジェクター・書画カメラ・デジタル教科書等）を活用した実践を行い、効果的な学習方法を検証する。
- ・ICT支援員による授業サポートを積極的に行う。
- ・実践交流会、ミニ学習会等で交流を行い、相互の教員の指導力の向上を図る。

### ② 読書活動の充実

- ・毎週月・木曜日（モーニングイングリッシュのない日）は朝学習で読書に取り組む。
- ・週に1回程度、図書館で本を借りる習慣づけを各学級で工夫する。
- ・学期に1回、朝学習の時間に読書タイムを実施する。（期間は1週間程度）
- ・学期に1回、「お話し宅配」（教師による読み聞かせ）を実施する。
- ・夏休み・冬休みに「おうちで読書」の取組を行う。
- ・図書まつりを年間2回実施し、児童の読書に対する意欲向上を図る。
- ・図書委員による読み聞かせを計画する。
- ・読書記録カードへの記入を徹底する。

③ 朝学習の取組

- ・基礎学力を向上させるための取組として、1・2・3年生は8時30分から8時45分までの15分間、前学年及び本学年の既習内容の復習を行う。内容は、各学年の実態に合わせて柔軟に実施する。
- ・1～3年生は週に1回、4～6年生は3週で2回のサイクルで、モーニングイングリッシュを実施し、ゲームや歌を通して外国語に触れる。

※4～6年生のモジュール学習の教科は月曜6限目の教科

	月	火	水	木	金
1・2・3年	読書	国語／算数 1年 English	国語／算数 2年 English	読書	国語／算数 3年 English
4年	読書 English	国語モジュール	国語モジュール	読書 English	国語モジュール
5・6年	読書 English	算数モジュール	算数モジュール	読書 English	算数モジュール

④ 家庭学習の取組

- ・「家庭学習の手引き」を1年生の保護者へ配付する。家庭学習の意義や家庭での取りまかせ方、時間の目安等を保護者に周知することで、学校と保護者が一体となった学力向上の取組を推進する。
- ・学年で決められた学習時間を確保する課題を与える（家庭学習の手引き参照）。宿題は、できる限り国語・算数・音読を取り入れる。
- ・3年生以上で自主学習に取り組む。学年に応じた自主学習の取り組み方について提示し、自ら課題を設定し、自主的に学習を進める力を育む。内容については「家庭学習の手引き」を活用する。
- ・学期に1回、家庭学習強化週間の実施にあわせて、落ち着いて家庭学習を行う習慣を定着させる。

⑤ 全国学力学習状況調査の分析

全国学力学習状況調査の結果を全職員で分担し、分析する。児童の強みや弱みを共通理解し、弱みの見られた単元・領域を、各学年で重点的に指導する。

⑥ 「授業力UP5★」の活用

「授業力UP5★」についてすべての教員が共通認識をもち、5つの視点を大切にしながら授業づくり・授業改善ができるように、校内研修を進める。

⑦ 「読む・書くワークシート」「読む・YOMUワークシート」

1・2年生は「読む・書くワークシート」、3年生以上は「読む・YOMUワークシート」に取り組ませる。

#### 4 年間計画

一 学 期	4月 4日 (火) 研修部会 研究主題と研究の方向性の検討・役割分担 4月18日 (火) 学力学習状況調査 (6年) みえスタディ・チェック (4・5年) 4月19日 (水) 第 1回校内研修会 今年度の研究の方向性について確認
	5月 8日 (月) 研修部会 研修実施計画の検討 5月12日 (金) 第 2回校内研修会 今年度の研究について 研修実施計画の提案・検討 5月24日 (水) 第 3回校内研修会 学力学習状況調査の結果分析 5月26日 (金) 研修部会 学調分析のまとめと今後の指導について
	6月13日 (火) 第 4回校内研修会 2年提案授業事前検討会 (全体研) 6月26日 (月) 第 5回校内研修会 <b>2年提案授業</b> ・事後検討会 (全体研)
	7月 日 ( ) 研修部会 1学期の振り返り
	8月 日 ( ) 第 6回校内研修会 鈴教研全員学習会への参加及び交流
二 学 期	9月 日 ( ) 研修部会 2学期の取組について
	10月 日 ( ) 第 7回校内研修会 4年提案授業事前検討会 (全体研) 10月17日 (火) 第 8回校内研修会 <b>4年提案授業</b> ・事後検討会 (全体研) 10月 日 ( ) 第 9回校内研修会 <b>5年提案授業</b> ・事後検討会
	11月 日 ( ) 第11回校内研修会 <b>3年提案授業</b> ・事後検討会 (学年部)
三 学 期	1月 日 ( ) 研修部会 3学期の取組・今年度のまとめについて 1月 日 ( ) 第12回校内研修会 <b>1年提案授業</b> ・事後検討会 (学年部) 1月 日 ( ) 第13回校内研修会 今年度の研修のまとめについて提案
	2月 日 ( ) みえスタディ・チェック (5年) 2月 日 ( ) 第14回校内研修会 年間総括 2月 日 ( ) 研修部会 年間総括を受けて
	3月 日 ( ) 第15回校内研修会 来年度に向けて

※ミニ学習会を原則毎月第1金曜日に実施する。

発表者は輪番とし、日々の実践内容を発表する。任意参加として、自主研修会の形態をとる。

【1学期】 5月19日          6月2日          7月7日

【2学期】 9月 1日          10月6日          11月2日          12月1日

【3学期】 1月19日          2月2日          3月8日